

がん対策、企業もアクションを

がん社会 を診る

中川 恵一

がんは細胞の老化といえる病気ですから、年齢とともに発症リスクは高くなります。

男性の場合、55歳までにがんになる確率は5%もありませんが、65歳までは13%、75歳まででは32%と急激に増えて、生涯の発がんリスクは3分の2近くになります。

女性の場合、女性に特有な乳がんと子宮頸(けい)がんが若い世代にも多いため、50代半ばまでは女性のがん患者が男性を上回ります。30〜40代では女性のがん患者数は男

性の倍以上になります。

女性ホルモンの刺激で増える乳がんは閉経後にリスクが減るため、40代後半にピークがあります。子宮頸がんは性交渉に伴うウイルス感染が原因のほぼ100%を占め、30〜40代が最多です。

女性が55歳までにがんになる確率は1割弱で、65歳まででは17%、75歳まででは27%。生涯の発がんリスクは男性より低い5割強です。

65歳までにがんになる確率

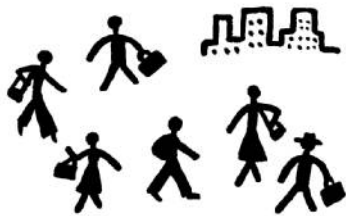


イラスト 中村 久美

は男女とも15%前後です。から、社員が皆、65歳まで働けば、社内の6〜7人に1人が、がんに罹患(りかん)するものになります。

逆に会社が今以上に男性中心で定年が55歳だったかつて、働くがん患者はまれでたはず。しかし定年の延長と女性の就労が、環境を変えました。「がん社会」の到来です。

厚生労働省は2009年、会社でのがん対策を進める国家プロジェクト「がん対策推進企業アクション」を立ち上げました。15年も続く異例のロングラン事業で、開始以来、私が議長を務めています。

趣旨に賛同して「パートナー企業」となった会社・団体は5千を超えて増え続けています。23年4月、企業アクションのフィロソフィーを新たに策定しましたので、以下に

紹介します。

がんは、命のかけがえのないと生きる意味を教えてください。病気です。がん対策推進企業アクションは、職場でのがん対策が、社員と会社をさらに高める高みへ導くと信じています。

社員の死因の約半分はがん。女性と高齢者が会社に増えるなか「はたらく人をがんから守る」ことが求められています。がん対策推進企業アクションはその先頭に立ちます。

職場でのがん対策は、社員と家族を守るとともに、会社の発展にもつながります。企業文化の成熟度のバロメーターといえるでしょう。がん対策は、まちがいなく「経営課題」です。

企業アクションは国の事業ですから、費用負担などは一切ありません。あなたの会社は登録済みですか。「企業アクション」で検索を。

(東京大学特任教授)